

## 市長の窓

しげ のぶ  
滋宣の



イラスト  
小黒真二さん

ほう ちゅう かん      あん ちゅう めい

# “忙中閑あり暗中明あり”

その 29

## ～ 風呂吹き大根 ～

寒い冬の夜に、熱々の風呂吹き大根をふうふうしながら食べるのは、至福の時といたら大げさでしょうか？

なぜ、「風呂吹き」というかご存知でしょうか。

一説には、熱い大根をふうふう吹いて食べるのが、風呂の火をふくのに似ていること。また、古くには風呂というのは蒸し風呂が一般的で、そこには「風呂吹き」と呼ばれる、熱くなった体に息を吹きかけながら、垢をこすり取る役目の人がいて、その息を吹きかける様子が大根を食べる時に似ていたことから、「風呂吹き」と呼ばれるようになったといわれています。

ちなみに、古くは蕪で作られていて、大根を用いるようになったのは明治になってからだそうです。

寒い夜は、「風呂吹き大根」で一献傾けたいものです。

恍惚と風呂吹きの湯気立ちにけり  
(草間時彦)

## 能代市長 齊藤 滋宣



福島の子もたちを招待し、常盤小の児童らとだまこ鍋づくりや縄ない体験などで楽しんでいただきました。(1月8日、「冬のほかほか体験in能代(能代いなか体験推進協議会主催)」にて)